

'21ミス日本「海の日」吉田さくらさん

◆【さくらの休日 第2回】

古(いにしえ)から変わらない

岩礁と船を見守り続ける灯台に歴史を感じた海の旅！③

【海岸段丘の岬と白亜の灯台】

二日目は石川県の能登半島に向かいました。世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」の豊かな自然やユネスコ無形文化遺産に認定される文化・祭礼をはじめ、食、伝統工芸、温泉など、多くの人を引きつける魅力があふれている能登半島。北陸地方の中央付近から日本海へ北に向けて突き出した半島で、日本における日本海側海岸線で最も突出面積が大きい半島と言われており、ドライブ中は常に海が見えていました。

能登半島に来たからには最先端に行ってみたいと思い、海岸段丘の岬で能登半島の最先端「禄剛崎(ろっこうさき)」に向かいました。遊歩道「岬自然歩道」が整備され、先端には「日本の灯台50選」にも選ばれた白亜の「禄剛崎灯台(ろっこうさきとうだい)」が立っています。とても晴れた日だったので、遠くに立山連峰や佐渡島を望むことができました。目の前に広がる海の鮮やかな青色と対照的に真っ白の灯台が立っていて、美しい景色に胸を躍らせました。

さざ波の煌めきはいつまでも眺めていられるほど魅力的でした。

残念ながら、新型コロナウイルス感染症対策の影響で灯台に登ることができなかったので、次に訪れるときは灯台からの景色も楽しみにしたいと思います。

この旅では、視覚、嗅覚をはじめ五感すべてで海を楽しむことができ、海の魅力を再発見することができました。移動中も車窓から豊かな緑や海の景色を眺められ、自然の恩恵に改めて感謝する機会にもなりました。海の絶景に心が安らぎ、記憶に残る旅となりました。

*禄剛崎灯台(ろっこうさきとうだい) : 石川県珠洲市